

緩和治療部会報告

研究分担者 須田隆文（浜松医科大学教授）
宮下光令（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 緩和ケア看護学分野）

研究要旨

【背景・目的】特発性間質性肺炎をはじめとする間質性肺疾患（ILD）は、しばしば適切な治療を行っても病状は進行性であり、咳・呼吸困難を呈して患者のQOLは低下する一方で、終末期に十分な緩和ケアを享受できていない現状がある。本部会では、ILDに対する緩和ケアを普及・確立すべく、本邦におけるILD患者に対する緩和ケアの実態やニーズ、問題点を明らかにすることを目的とした。

【方法】本年度は、ILDまたは肺がんで死亡した患者の遺族を対象に、終末期の苦痛症状緩和および望ましい死の達成度（QODD）に関してアンケート調査を行った。緩和治療部会参加施設をはじめとする全国30施設の共同研究にて実施した。今回の検討では、ILD患者における予後の認識、急性増悪の認識を遺族の視点から調査して、予後認識と遺族の評価するQODDや終末期治療介入との関連を解析した。

【結果】共同研究施設においてILD（529例）又は肺癌で死亡した（657例）患者の遺族を対象として、終末期QOL等に関するアンケート調査を行った。ILD患者遺族、肺癌患者遺族の、それぞれ57%（303/529）、51%（335/657）より回答を得た。ILD患者遺族における有効回答例のうち、ILDは致死的な疾患であると認識（予後認識）していた割合は55%、また、ILDは急性増悪を来して死に至る可能性があることを認識（急性増悪の認識）していた割合は47%であった。病状認識のあるILD患者群は、病状認識のない群と比較して、遺族の評価するQODDが有意に高値だった。

【結語】ILD患者において、十分な病状認識が達成されているとはいえない現状がある。一方、適切な病状認識をもつことは、ILD患者の終末期のQOLを高めることに寄与する。

A. 研究目的

特発性間質性肺炎をはじめとする間質性肺疾患（ILD）は、しばしば適切な治療を行っても病状は進行性であり、終末期には強い呼吸困難を呈して患者のQOLは著しく低下する。一方で、ILD患者に対する緩和ケアは肺癌患者に対するそれと比較して立ち後れており、実臨床においてILD患者に十分な緩和ケアを提供できていない現状がある（1, 2）。

そこで、これまで不十分であったILD患者に対する緩和ケアを充実させ臨床現場での普及を目指すべく、びまん性肺疾患に関する調査研究班において緩和治療部会が発足した。本部会では、本邦におけるILD患者に対する緩和ケアの実態やニーズ、問題点を明らかにすることを喫緊の課題と位置づけた。具体的には「呼吸器内科専門医」、「ILD患者遺族」各々を対象として、全国規模でのアンケート調査を行い、包括的にILD診療における緩和ケアの現状調査を計画した（図1）。全国規模での実態調査を進めることで、ILD患者に対する緩和ケアの抱える問題点や課題が明らかになり、それらを解決すべくさらに研究を推進することが可能となる。調査結果や研究成果に基

づき、ILD患者に対する緩和ケアの確立に努めるとともに、広く実臨床への緩和ケアの普及を目指したい。

B. 研究方法

2021年11月より、全国30施設の共同研究として、ILDまたは肺がんで死亡した患者（ILD 529例、肺癌 657例）の遺族を対象に、予後の認識や急性増悪の認識、終末期QOLに関するアンケート調査を実施した。アンケート調査事務局を浜松医科大学 第二内科として、部会メンバーでアンケートを作成し、アンケート発送・回収事務局を東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 緩和ケア看護学分野（宮下光令教授）として郵送した。アンケートへの回答は無記名とした。

C. 結果

「ILD および肺がん患者の苦痛緩和の実態および Quality of Dying and Death (QODD) に関する研究: 多施設横断研究」として、ILD 患者（529例）と肺がん患者（657例）の遺族を対象に、終末期QOLに関するアンケート調査を実施し、それぞれ57%（303/529）、

51% (335/657) より回答を得た。

ILD 患者遺族からの有効回答例のうち、ILD は致死的な疾患であると認識（予後認識）していた割合は 55%、ILD は急性増悪を来して死に至る可能性があることを認識（急性増悪の認識）していた割合は 47% にとどまっていた（図 2）。病状認識のある ILD 患者群は、病状認識のない ILD 患者群と比較して、遺族の評価する終末期 QOL（GDI18 項目平均スコア）は有意に高値だった（4.22 vs. 4.00; adjusted $p=0.037$ ）。具体的な項目として、「先々のことを自分で決められること」「人生を全うしたと感ぜられること」「ご家族やご友人とよい関係でいられること」「自然な形で過ごせること」「信仰に支えられていること」は、病状認識あり群で病状認識なし群と比較して有意に高値だった（図 3）。

D. 考察

本調査研究では、患者の病状認識に焦点をあて、遺族の評価する QODD を調査した。その結果、実臨床において ILD 患者は十分な病状認識が達成されているとはいいがたい現状があることが明らかとなった。さらに、適切な病状認識をもつことは、ILD 患者の終末期の QOL を高めることに寄与する可能性が示唆された。

先行研究にて、全国の呼吸器専門医を対象とし ILD 緩和ケアに関する全国調査を実施した。その結果、呼吸器専門医は、ILD 患者の苦痛緩和や意思決定に大きな困難さを感じていた（3）。また、ILD 緩和ケアにおける有意な問題点として、「予後、急性増悪の予測が困難」「患者・家族の疾患理解が難しい」「呼吸困難・咳に対する症状緩和方法が確立していない」ことなどが抽出された。今回の遺族調査の結果から、適切な病状認識をもつ ILD 患者は約半数程度にとどまることが明らかとなり、呼吸器専門医が感じる、「患者・家族の疾患理解の困難さ」が現実のものとして認識される形となった。

今後は、ILD 患者への調査により、患者自身のもつ病状認識（予後、急性増悪など認識）の実態を明らかにすることが喫緊の課題と考えられる。それには、ILD 患者を対象とした病状認識の実態に関する調査研究の実施が望まれ、現在、横断的調査研究を計画している。それにより、ILD 患者における病状認識

の実態を明らかにするとともに、疾患進行度と病状認識の関連や病状認識と QOL の関連等を解明してゆきたい。

E. 文献

1. Akiyama N, Fujisawa T, Morita T, Mori K, Yasui H, Hozumi H, Suzuki Y, Karayama M, Furuhashi K, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Suda T. Palliative Care for Idiopathic Pulmonary Fibrosis Patients: Pulmonary Physicians' View. J Pain Symptom Manage. 2020 Nov;60(5):933-940.
2. Koyauchi T, Suzuki Y, Sato K, Hozumi H, Karayama M, Furuhashi K, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Yokomura K, Imokawa S, Nakamura H, Morita T, Suda T. Quality of dying and death in patients with interstitial lung disease compared with lung cancer: an observational study. Thorax. 2020 Dec 9;thoraxjnl-2020-215917.
3. Fujisawa T, Akiyama N, Morita T, Koyauchi T, Matsuda Y, Mori M, Miyashita M, Tachikawa R, Tomii K, Tomioka H, Hagimoto S, Kondoh Y, Inoue Y, Suda T. Palliative care for interstitial lung disease: A nationwide survey of pulmonary specialists. Respirology. 28(7):659-68. 2023.

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表：

1. 藤澤朋幸：急性増悪の緩和ケア。呼吸器内科，科学評論社 45(1):64-70, 2024.

2. 学会発表：

1. 藤澤朋幸：間質性肺疾患における緩和ケアの現状と課題。（シンポジウム）第 33 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会。2023.
2. 小谷内 敬史, 藤澤 朋幸, 秋山 訓通, 宮下 光令, 森 雅紀, 森田 也, 松田 能宣, 萩本 聡, 立川 良, 富井 啓介, 近藤 康博, 富岡 洋海, 井上 義一, 須田 隆文. : 間質性肺疾患患者の症状認識の実態および終末期 QOL への影響 全国多施設共同遺族アンケート研究. 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会. 2023.

H. 知的財産権の出願・登録状況：なし

図 1. これまでの研究経過

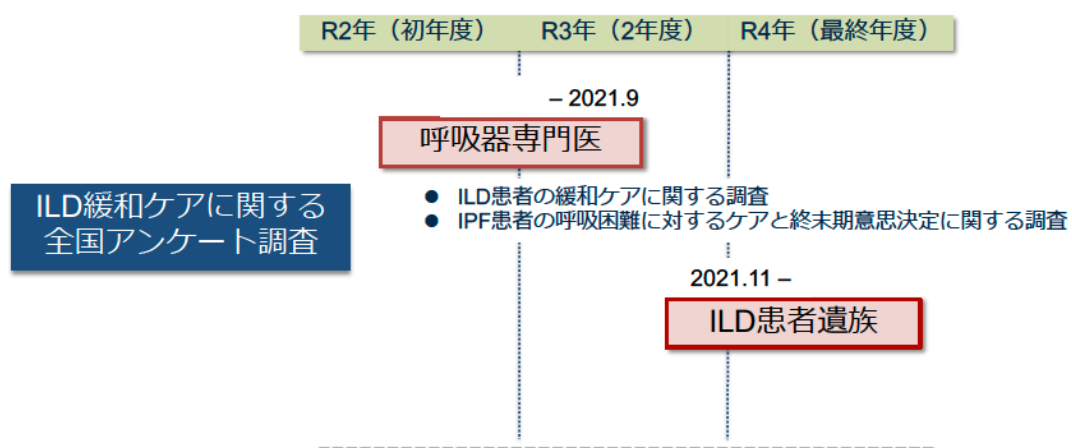
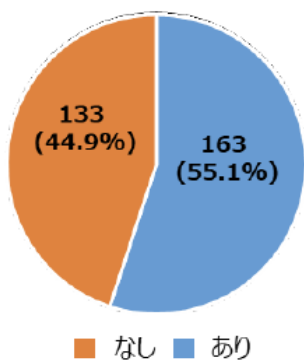


図 2. 予後認識, 急性増悪の認識を有する患者の割合

予後認識を有する割合



急性増悪の認識を有する割合

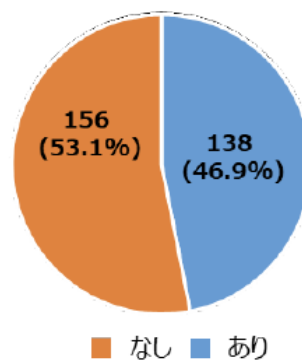


図 3. 終末期 QOL（18 ドメイン平均スコア）および各ドメインスコア

